事務局顚末記

井上礼子

ＰＰ21は、東京の事務局から見て何だったか。混沌と混乱。けれど、その混沌の中から何かが生まれ出てくるという希望と予感。それは国内外の仲間たちとともに働いているという実感とそして新たな出会いからくるものでした。ＰＰ21は各地各プロジェクトの実行委員会がそれぞれにイニシアティブを発揮して、横に並んで全国実行委員会を形成するという組織原則を立てていました。実際、八月全国各地で展開された行事は、小さすぎる事務局には大きすぎる規模で、事務局が全体を掌握するなどということは、決してありませんでした。行事が終了して一ヵ月たった今でも、「へえ、そんなことがあったの」というようなことが度々です。事務局は行事や会議に直接参加することはほとんどできませんでしたし、また多くの行事が同時多発で行なわれたのですべてに参加することは誰にとっても不可能でしたから、全体像を把握している人は誰もいません。この報告集で初めて一応の全体像が見えるようになったのではないかと思います。けれどこの報告集にも語られない出会いやエピソードは数限りなくあったでしょう。その中には将来さまざまなかたちで実を結ぶ大事な出会いもあったことと思います。誰にも全体像が分からない程に各地、各プロジェクト、各団体、個人さまざまなレベルで多様なイニシャチブが発揮され、ＰＰ21が目指した組織原則が混乱と混沌のなかではからずも実現した、という感じです。

ＰＰ21実行委員会が発足した当時は目指すものと共通の志しはありましたがそれがどういう形をとっていくかはまったく漠としていました。しかもこんな大じかけなことは誰にとっても初体験だったので、どういう段取りで進めてよいやら手探りでした。

ＰＰ21東京事務局が実質的に形成されたのは実行委員会結成から約二ヵ月後の一九八八年十一月。アジア太平洋資料センター（ＰＡＲＣ）から歩いて一分のところに取り壊し寸前の二階家を借りて、ペンキを塗り直し、畳の上に絨毯を敷き、デスクや本棚、コーヒーカップに至るまでもらい集めてスタートしました。その時点ではお金はまったくなかったので、敷金その他は借金でした。

東京事務局の仕事はコーディネーターを補佐して、ニュースの発行、マスコミ宣伝、各地域・各プロジェクトとの調整、その他ありとあらゆる雑用ですが、大きな時間を費やしたことはやはり海外からの参加者を迎え、そ

れぞれの会議の現場まで送り込むこと（それにまつわるチケットの手配や通訳の手配などなど）と、それに要するお金づくりでした。

＜お金づくり＞

最初に着手した、そして最後まで続いている全国事務局の大きな仕事はお金集めでした。七月に入るころまで収支がどうなるかが見えずひやひやしっぱなしでした。最終決算は未だ出ていないので、以下の金額はすべて概算ですが、支出総額はおよそ八〇〇〇万円。

海外参加者の各会議期間中の滞在費は各プロジェクト実行委員会負担ですが、その渡航費、国内交通費、水俣と東京滞在費は原則として全国実行委員会経費としましたので、この部分が支出のなかで最大の部分を占めました。海外参加者の渡航費が一九〇〇万円。二八一人の外国人参加者のうち、主として欧米からの参加者および海外共催団体の代表で自己負担で参加した人は一五人、日本在住者が二〇人、ＡＣＦＯＤ会議、ＡＷＳＬ会議、アジア太平洋消費者会議の会議参加者の渡航費それぞれ会議主催団体の負担でしたので、ＰＰ21全国予算で負担した招待者の数は一五〇人でした。それぞれの人がその国でいちばん安いチケットを買ってきてくれたので人数の割りには渡航費は安く済んだと思います。国内移動費の方が一三八〇万円と高くついてます。上記の自己負担の人びとも国内移動費はＰＰ21実行委員会の負担となり、なにしろ東京－北海道－沖縄－水俣－福岡－東京といった大胆な移動をした人が多くいましたので、全日空のご協力により三割引きにして頂きましたが、それでもこの金額になりました。水俣集約会議の費用が六〇〇万円でこの大半は一五〇人にのぼった外国人参加者の六日間の宿泊・食費です。海外参加者が日本に到着してから実行委員会が発足した一九八八年九月から八九年九月まで一三ヵ月管野の事務所維持費（家賃・人件費・国際電話を含む通信費）が三五〇〇万円です。ちなみに七月一ヵ月の国際電話代が八〇万円でした。その他の主な支出は印刷代や三回にわたった全国実行委員会の経費などです。この支出の面でも、最初は一銭もないところから始めたうえに、やったことのない規模でしたので、実にちびちびとけちった一方で、エネルギーを無駄使いして、結果的に高くついたというような失敗もありました。

収入総額も八〇〇〇万円近くで、その内の何と三三八〇万円が海外の団体（主として第三世界に関わっているキリスト教の国際団体）からの寄金です。最初の数ヵ月間コディネーターの武藤さんはこのために、タイプライターを打ちならし続けていました。こうして打ちだされたＰＰ21の考え方が共感を得たこと、そしてアジア太平洋の国々を中心に日本に何とか変わってもらわなければという強い期待とがこの多額の寄金になったのでしょう。

さらに一七八〇万円が国内の財団等からの寄金、一二六〇万円が一般カンパそして三二〇万円が実行委員会の準備賛同寄金です。その他にタイ、フィリピンなどの民衆組織がつくった民芸品や山形の白鷹農産加工研が寄せてくれたお餅や漬物、オルタ・トレードの協力によるネグロスのバナナなどを売るなどこまごまとお金をつくりました。オークション・パーティーまで、こうしたらお金をつくれるのではないかというアイディアを誰かが提案すると即やってみました。

＜海外の仲間の招聘＞

各地、各プロジェクトの実行委員会とどういう人を海外から招くかの相談から始めました。コーディネーターの武藤一羊さんが中心になって、六月からはインドからやってきたローレンス・サレンドラさんも加わりました。海外参加者総数は三一ヵ国、二八一人にのぼったわけで、その人たちに招待状を送ることが大仕事でした。郵便、電話事情が悪く招待状がなかなか届かない地域もありました。また招待者の多くはそれぞれの国で運動の中心になって飛び回っている人たちなので事務所や自宅に届いても本人の手元に届くまでに時間がかかるといったこともありました。招待状が届き次第さっと返事を送ってくる能率的な人もいて、こちらの応答が遅いといって叱られることもあった一方で、招待状が届いて、参加することを決めていながら、返事を書くということは思いつかないらしい人もいました。

ドジや郵便事情と平行して、シリアスなアジア・太平洋各地の政治状況の問題が当然にも密接にからみあってきます。マレーシアのリム・チン・チンさんは早くから招待者のリストに挙がっていましたが、悪名高い国家治安法で一昨年逮捕され、釈放時に町の外に出るときは許可を得ることが義務づけられていました。彼女は「参加したいけれど、許可が出る可能性は少ないし、仮に許可が出るとしてもそのために自分の方からなんらかの妥協をすることは気が進まない」と書いてきました。韓国はこの春以降急激に冬に逆戻りした状況で、農民会議に参加する予定だった農民運動の指導者、女性フォーラムの招待者などが直前になって、パスポートがとれず、参加を断念せざるを得ませんでした。フィリピンからの参加者の多くは、出国はできても、日本大使館がなかなかビザを出さないために会議が始まってもまだ来れるか来れないか分からないといったことがありました。

先住民会議に参加したダギタンさんは、コルディレラの山のなかからマニラに出てきてからビザがとれるまで毎日大使館に通って一週間も待たされました。その間お金のない彼は電話もしてこなかったので私たちは最初の予定の便に合わせて空港まで迎えにいき、数日たって、もう来ないのかとあきらめかけていた夜の十時過ぎに成

田から今着いたという電話がかかりました。それから迎えに行ったら空港が閉まってしまうという時間です。自分でリムジンに乗ってこいというと二～三ドルしか持っていないという返事。マニラで待っている間に僅かな有金をはたいてしまったのです。しかたなく、リムジンの箱崎ターミナルまでタクシーを飛ばして係員に乗車料金を払って、空港にいるリムジンの職員に電話をしてもらって切符なしで乗せてもらうことにしました。こんなことしたのは初めてでした。七～八月は毎日のようにこのような「突発事件」の連続でした。

すべての行事が終わってから、女性フォーラムの事務局に電話して「××さんは本当に来てたの？」と、問いあわせたりして海外参加者名簿がようやく完全なものになったという次第です。これがなかなか決まらなかったために各行事主催者、とくに水俣と福岡アジアン・フェスティバルの実行委員会の皆様には大変やきもきさせてしまいました。

海外からの参加者のなかにはえらい人もいましたが、お金がないために「えらい人」も「えらくない人」も水俣では皆ごっちゃらに大部屋で寝てもらい、はからずも平等な仲間という実感が沸いてきました。それでもお金も人手も余裕があったなら、もうすこし快適にすごさせてあげたかったと反省されます。長旅で疲れていただろうにみんな、よく辛抱してユーモアをもって応えてくれたことに感謝の念がつのります。海外からの参加者の一人が日本は「能率いってんばりの国だと思っていたがPPに来てみて決してそうではないことがわかってほっとした」という感想をもらしていたそうです!?

東京事務局のスタッフは最初花崎晶さん一人から始まって、七月には五人、そして一〇人前後のボランティアの人たちがともに担って下さいました。ほとんどが二〇代の人たちでした。各地、各プロジェクトで事務局で働いた人の数を合わせれば数百人にのぼることでしょう。PP21がやり残したことはたくさんあるし、また多くの人との出会いのなかで新たにやりたいことも湧いてきました。これだけの仲間たちが国の内外にいればいろんなことができるという実感がわいてきます。

この報告集は一刻もはやく、この夏行われたことを多くの方々と共有したいという思いで、急いでつくりました。予算、時間の制約上、大事な文書の多くを割愛せざるを得ませんでした。各実行委員会が準備中の報告集をご覧下さい。とくに水俣実行委員会主催のフォーラム「人間と自然」を掲載できなかったことを水俣の方々、読者のみなさまにお詫びします。

（編集部）

〈今後の出版予定とお問い合わせ先〉

☆じゃなかしゃば（ＰＰ21のすべてを花崎晶・堀川禎一が辿る
：同文館より来春刊行予定）
★ＰＰ21・21国際民衆行事記録ビデオ
☆オールタナティブ資料集（１）（２）（既刊）
（以上アジア太平洋資料センター：０３－２９１－５９０１）
☆百姓国際交流会報告集
（白鷹農産加工研：０２３８－８５１－１２１０）
☆世界先住民族会議全記録（１１月末刊行予定）
★世界先住民族会議記録ビデオ（英語版・発売中）
（以上北海道実行委：０１１－５９２－１７４８）
☆’89ＡＷＳＬ日本総会報告集（１１月刊行予定）
（労働情報：０３－４３３－０３７５）
☆アジア女性フォーラム報告集
（she’s ：０３－２２７－２８３７）
☆ＯＤＡ資料集（既刊）
（ＯＤＡ調査会：５６８４－８７５６）
☆神奈川国際シンポジウム報告集
☆打ち上げ花火’89・アジア学生交流会報告文集
★ルックアジアウィークエンド記録ビデオ
（以上アジア太平洋資料センター）
★チャンバワンバライブビデオ・カセットテープ
（菅原和之：０３－３１８－７２０４）
☆アジア太平洋消費者会議報告集
（日本消費者連盟：０３－７１１－７７６６）
☆アジアン・フェスティバル報告集
（吉田登志夫：０９２－５６６－０９０６）

ピープルズ・プラン２１世紀
「１９８９年夏・国際民衆行事報告集」
編集　オルタナティブ委員会
発行　ピープルズ・プラン２１世紀
東京都千代田区神田神保町１－３０正光ビル４０２
アジア太平洋資料センター気付
☎０３－２９１－５９０１
郵便振替東京５－３６７４１０
発行日　１９８９年１０月２１日
定価　１０００円